

全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	体 育
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	補充的・発展的な 学習指導計画
第 1 学年	・様々な運動に楽しみながら取り組み、幅広く技能を高めてきている。日常から進んで運動に親しんでいる児童とそうでない児童が見られる。	・さらに仲間とかかわって運動を楽しめるよう、グループでの運動や、ゲームを取り入れる。学習後に振り返りの場面を設け、今後の運動意欲や技能の向上につなげていく。	・日常から進んで体を動かして遊ぶように声をかけ、意欲をもたせる。保護者にも協力を要請し体力向上を図る。
第 2 学年	・いろいろな運動に親しみながら、幅広く技能を高めてきているが、さらに運動経験を積む必要がある。日常から進んで運動に親しんでいる児童とそうでない児童が見られる。	・仲間とかかわって運動を楽しめるように、グループでの運動やチームゲームを取り入れる。学習後に運動の楽しさや、心地よさを振り返り、次の運動への意欲、運動の日常化を促していく。	・日常から進んで体を動かして遊ぶ意欲をもたせていく。自分の体を使った(自体重)動きを取り入れていく。保護者にも協力を要請し体力向上を図る。
第 3 学年	・日常的な運動経験、学習への意欲が十分にある児童とそうでない児童がいる。中学年としての基本的な技能をしっかりと身につけさせる必要がある。	・学習カード等を活用し、どの単元でもめあてをもって運動させる。チームでの教え合いを重視し、仲間とかかわって運動させる。楽しい体験をたくさんさせ、運動の日常化を促す。	・保健の領域では、養護教諭や栄養士と連携して授業を行う。日常から進んで体を動かして遊ぶ意欲をもてるよう保護者にも啓発していく。
第 4 学年	・器械運動、走運動、水泳などに取り組み、技能を高めてきている。日常から進んで運動に親しんでいる児童とそうでない児童が見られる。基礎的な技能を身につけられるよう指導が必要である。	・学習カード等を活用し、めあてをもって運動に取り組み、授業後には学習を振り返るよう、授業改善を行っている。技能の高まりを実感させ運動の楽しさを味わわせる具体的な言葉かけをする。保健領域については、養護教諭や栄養士との連携を図り、組織的に指導していく。	・普段の生活での運動への二極化傾向がみられる。休み時間や、放課後も進んで体を動かして遊ぶ意欲をもてるよう声をかけ、保護者にも啓発していく。
第 5 学年	・運動が得意な児童と苦手な児童との差はあるものの、体育の学習では全体的に進んで運動に取り組んでいる。 ・日常的に運動に取り組む児童と、そうでない児童との差が大きく見られる。 ・外部でのスポーツに通う児童が増えており、実技の偏りが見られる。	・学習カード等を活用して、自分が身に付けたい技能ポイントを明確にし、めあてをもたせることで技能の向上を図り、基礎的・基本的な動きができるようにする。 ・様々な活動でグループ活動を取り入れ、教え合い、学び合いの効果を実感させ、上達する喜びや、友達と協力する気持ちを育て、運動の日常化につなげる。	・休み時間の外遊びを奨励し、日頃から運動に親しむ環境をつくる。体育の学習内容を工夫し、様々な運動を紹介しながら、運動の楽しさを伝え、運動の日常化につなげる。
	・日常的な運動経験、学習への意欲が十分にある児童とそう	・学習カードを活用して、自分が身に付けたい技能ポイントを明確に	・保健の領域では、養護教諭や栄養士と連携して授業を

第6学年	でない児童がいる。技能が高い児童がいる反面、高学年としての基本的な技能が身につけていない児童が10%程度いる。	し、めあてをもって運動させていく。 ・トリオ学習やチームでの教え合いを重視し、仲間とかがわって運動させる。一人一人の技能を確実に高め、楽しさ体験をたくさんさせ、運動の日常化を促す。	行う。休み時間など日常から進んで体を動かし、運動に親しむ環境をつくるよう、保護者にも啓発していく。
------	---	---	---